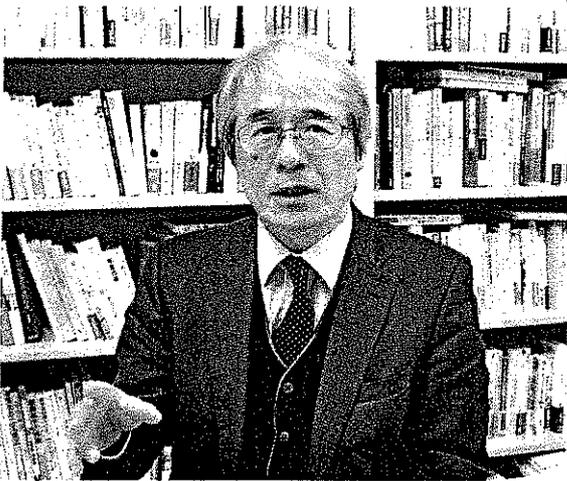


2020 焦点・論点

「全世代型社会保障改革」の狙いと対抗軸

仏教大学教授(社会保障論) 横山 壽一さん



安倍首相が「本年最大の挑戦だ」と位置づける「全世代型社会保障への改革」の狙いと特徴について、仏教大学の横山壽一教授(社会保障論)に聞きました。(聞き手・藤原直)

「生涯労働強制社会」でいいのか 健康で文化的な生活 政府に責任

よこやま・としかず 1951年生まれ。金沢大学経済学部長、岡山大学地域連携推進センター長などを歴任。2016年から仏教大学教授。著書に『いま地域医療で何が起きているのか』(共著)、『国保険を揺るがす「医療改革」』(編著)など多数。

「全世代型社会保障」をめぐって、国民は政府に何を求め、公的責任は誰にあるべきか、方向性を求めるような議論も出ています。私には、健康で文化的な生活を送る権利があることを政府に求めたいです。

まず、社会保障を考えた場合、かたの労働者が「生涯労働強制社会」になり、健康で文化的な生活を送る権利が保障されなくなるといわれています。健康で文化的な生活を送る権利は、憲法で保障されています。政府は、健康で文化的な生活を送る権利を保障する責任があります。

「全世代型社会保障」は、少子高齢化の中で、国民の生活を支えるための重要な政策です。しかし、健康で文化的な生活を送る権利が保障されなくなるといわれています。政府は、健康で文化的な生活を送る権利を保障する責任があります。

政府は、健康で文化的な生活を送る権利を保障する責任があります。健康で文化的な生活を送る権利は、憲法で保障されています。政府は、健康で文化的な生活を送る権利を保障する責任があります。

健康で文化的な生活を送る権利は、憲法で保障されています。政府は、健康で文化的な生活を送る権利を保障する責任があります。健康で文化的な生活を送る権利は、憲法で保障されています。

健康で文化的な生活を送る権利は、憲法で保障されています。政府は、健康で文化的な生活を送る権利を保障する責任があります。健康で文化的な生活を送る権利は、憲法で保障されています。